

+Affiliated with the International Association
THE Y S MEN S CLUB OF TOKYO HACHIOJI
Chartered October 30, 1994



〒 194-0211
東京都町田市相原町 1857
長谷川 あや子
TEL & Fax: 042-771-6962
E-mail: ayako.h3@nifty.com

2026年1月

The Service Club of The YMCA

第367号

東京ハ王子ワイズメンズクラブ

会 長 長谷川 あや子
副会長 久保田 貞視
書 記 小口 多津子
会 計 稲葉 恵子
直前会長 並木 真
担当主事 西嶋 健太
ブリテン 山本英次 大久保重子

国際会長 エドワード・オン (シンガポール) 主題「信念、愛、行動」
スローガン「共に、より強く」
アジア太平洋地域会長 田上 正 (熊本むさし) 主題「信念と愛を持って行動しよう!」
スローガン「YMCA、ユースと共に地域社会に貢献しよう」
東日本区理事 山下 真 (十勝) 主題「ワイズのらしさ再発見」
スローガン「Change!」
あずさ部部長 山口 直樹 (東京武蔵野多摩) 主題「垣根を低くし、活発な活動を」
ハ王子クラブ会長 長谷川 あや子 主題「若い人の成長を願い、ともに歩む」

2026 年 1 月例会プログラム

日時: 1 月 24 日 (土) 18:00~20:00

会場: 八王子市北野事務所 2 階 大教室

担当 A 班: 花輪、望月、久保田

受付: 花輪メン、望月メン 進行: 久保田メン

開会点鐘 会長 長谷川あや子

ワイズソング 一同

ワイズの信条 一同

ゲスト・ビジターの紹介 会長 長谷川あや子

聖書朗読・直前の感謝 小口メン

卓話「八王子の偉人 肥沼博士」

卓話者: DR. 肥沼の偉業を後世に伝える会事務局長
(元八王子市役所勤務) 田口秀夫氏

YMCA 報告 西嶋担当主事

報告・連絡事項 会長・各委員

スマイル 花輪メン

Happy Birthday (並木信一メン) 会長 長谷川あや子

閉会点鐘 会長 長谷川あや子



先月の例会ポイント (12 月)

在籍	11 名	切手	計 0g
メン	9 名		
メイキャップ	1 名		
出席率	91%	現金	0 円
メネット	1 名	スマイル	23,300 円
ゲスト	8 名	累計	68,700 円
ビジター	5 名		
ひつじくも	3 名		

今月の聖句 (2026 年 1 月)

その時、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、きょうだい が私に対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか、七の七十倍まで許しなさい。」

(新約聖書 マタイによる福音書 18:21-22 聖書協会共同訳)

巻 頭 言

ワイズを心の糧に

長谷川あや子

明けましておめでとうございます。穏やかな新年をお迎えのことと思います。私は年末から

1月2日まで「姫路〜

小豆島〜大塚国際美術館」を巡る旅行をしてまいりました。

2002年、大阪セントラルクラブ

との合同例会は六甲

YMCA センターで行われましたが、例会の前にオプションとして茂木さんの計画で姫路城を訪れました。白壁の美しさから白鷺城と呼ばれていますが、まさにその名にピッタリでした。その時のことをありありと思い出しながら天守閣まで登りました。当時はスイスイと登ったと思いますが、今回はキツカッタ！そして帰途は徳島から新神戸に向かいましたが、2010年の淡路島での合同例会のことも思い出しました。現在は淡路島にお住いの、八王子クラブの生みの親である奈良さんもお元気のことと思います。ワイズの思い出は幾重にも幾重にも重なり幸せな気持ちにしてくれます。



いよいよ 2025-26 年度も後半に入ります。街頭募金、第24回チャリティコンサート、4月のW4W、中大ひつじぐも新歓草刈り&BBQ など大きな行事が目白押しですが、中大ひつじぐもの若い人たちと一緒に楽しんで行いましょう。

「楽しくなければワイズじゃない」は事を行うに当たっての私たちの心の在り方だと思いま

す。

私はワイズに入会当時、「苦しまないで下さい、楽しんで下さい。」と云われたことがあります。その時はどういう意味が分かりませんでしたが、難しそうな面倒なことにぶつかっても、精神は大らかに、失敗も笑って許して、みんなで楽しみながら進めて行きましょう、ということだと今は受け止めています。

ワイズで頂いた沢山の幸せな思い出を心の糧として、今年もみんなで楽しんで協力して歩んでいきましょう。

年頭に想うこと

ユース事業主任後半戦です！

並木 真

みなさま、明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。



東日本区のユース事業主任を務めさせて頂き、半年が経ちました。今までの半年は、その前に計画していたAYC2025 熊本の報告会にむけての準備や、富士山 YMCA グローバルエコビレッジでのYVLF2025での事務、運営に携わり、忙しく時間が過ぎていきました。

それぞれのイベント準備などに関わる中で、西日本区のメンバーの方や、かながわ部、北東部などあずさ部以外のクラブの方々、そしてAYCに参加したユースメンバーなど様々な方々との出会い、交流をさせて頂く機会を頂きました。

さあ、2025-2026 年度の後半に突入です。これからは、来年9月に予定しているYVLF2026に向けた準備に動き出し、NYC2026への対応を事業委員会のみなさまと検討していきます。そして、国際・交流で企画している2月後半からの「インド交流プログラム」への参加呼びかけ、TOFでの「不登校プログラム」との関わり、ユースアクション参加の呼びかけ、など様々なプログラムに関わっていきます。

しかし、やっぱりクラブの皆さんとの活動が楽しい！今年もクラブライフを楽しんでいきます。よろしくお願いします！

成人式及びその後の思い出

久保田貞視

小生の成人式は1960年1月15日に今はあきる野市になるが多西中学校体育館で開催された。66年前で「所得倍増計画」が発表された年で、国内の設備投資は旺盛で、貿易収支は恒常的に赤字でした。未だ物資が乏しく、成人式の記念品は大学ノート1冊でした。



成人式には東京都から来賓で鈴木副知事が参加され、多摩の郷土愛について力説され、余興は真打になりたての古今亭志ん朝の落語とまだあまり知られていなかった牧伸二のウクレレ漫談でした。

大学では将来の夢は日本の貿易収支を黒字化し、経済発展にささやかでも寄与する職業に就きたいと思っていた。学費はアルバイトで稼ぎ、授業科目は必須科目以外、金融論のゼミと国際関係の科目を選択し、当時岩波新書の「円・ドル・ポンド」でベストセラーになったその著者が本学の教授の為、彼にもご指導いただいた。

したがって、体育系のクラブ活動や当時学生の間で盛んであった女学生とのダンスやデートをする暇はなく、時間があれば奥多摩の山登りに費やした。余りムードのある学生生活ではなかった。



現在、仕事はどうに退職し、専ら30年以上継続しているワイズ活動では今年は地域に貢献し、認知してもらえ活動を探し、高齢で困難な面はあるが何とか会員増強にも努めたい。

年の始めのひとりごと

小口多津子

新年を迎えて、いつも気持ちは新しくなりますが、最近はいつも抱負どころか、願いになってしまいます。年令と共に健康とか、行動にいつも我知らず、何かを願っていることに気づきます。



ただ、ワイズにいたからこそ、今も元気でやって生きてきた、という確信だけはいつもあります。

人生の豊かさとは、作家曾野綾子さんの言葉から、「これまでにどれだけの人に、会ったか、で決まる」のかとも感じたりします。この「豊かさとは」に気づいた時、私にとっての今のワイズライフは、考えられなかった広がりを与えられてきました。年を重ねてきて色々なことが、身から消えていく失望感も味わうようになってきました。

それでもワイズに入っていると、何か少し社会性をもって働いている、という気持ちになります。大袈裟にいうなら、このクラブの力で何かを世の中に作り出しているような、生産という豊かな気持ちも味わいます。

そんな気持ちの持てる1年にしたいと思います。

85という歳を考える

山本英次

今年の11月を迎えると85歳となる。4年前に「日本尊厳死協会の会員登録」を済ませた。長女とその子供たち、長男とお嫁さんと子供たちに加えて掛かり付け医の承諾書を協会へ提出して、5年間の登録料を支払った。その5年目が85歳である。

『「自分の人生の最終段階の生き方を自らの意思で決定する」という尊厳死の理念は「最後まで自分らしく生き抜く」とそれが「尊厳ある死」であり、単なる延命治療を拒否するだけではない。』という趣旨に賛成した。

昨年末から今年1月に掛けて同級生や同年齢の仲間が相次いでこの世から去っていった。

Aさんはプール仲間である。フランスに別荘を持ち、毎夏には1ヶ月ほど避暑にご夫婦で出掛け、ドーバー海峡の海辺を泳いだ伝説のスイマーであったが、ジムの水中運動中に脳溢血を起こして亡くなった。同じジムの

Bさんは、北朝鮮からの来た在日朝鮮人として苦労して三多摩一の焼肉店を営んでいた女性であったが、

バタフライの練習中に脳梗塞を起こして一ヶ月後に亡くなってしまった。同級のCさん、Dさんは膀胱がんと悪性リンパ腫によりアツという間に亡くなってしまった。共に延命治療を拒否し、大学病院へ献体をした。

近くに住む無二の親友ともいべき同級生のE君は、私とは真逆で、東大を出て北大と東工大の教授を務めた優秀な人材であったが、奥様が病で倒れ、子供たち4人の女の子たちは海外生活で身近に居ることが出来ずに広い家に独り住まいを余儀なくされた後に認知症を患い施設で亡くなってしまった。

F君はF市で大きな天ぷら・ウナギの店舗を経営していたが、脳梗塞の後遺症で長く施設生活後になくなった。そして文筆家の嵐山光三郎氏は、中高6年間と一緒に過ごした同級生であるが、温泉三昧・放浪の旅の末に亡くなった。

僅か2ヶ月の間に7名の友人を送り出した。

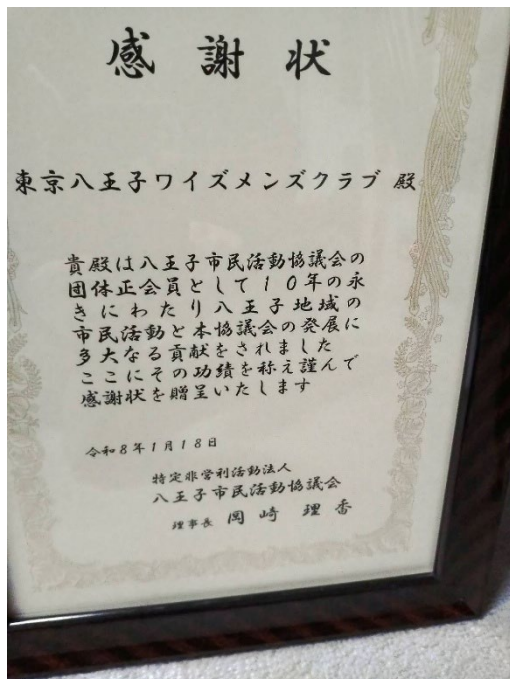
いよいよ我が身の最期の準備期間に入った事を自覚せざるを得ない状況である。

妻を亡くして早くも15年経過して、十分妻の分まで長生きしたので、おおいに妻へ報告できそうである。

東日本大震災の現場を混乱に落とした元総理も認知症になった。歳を重ねて生き恥を曝すのだけは避けたい。子孫に美田を残さず、相続を争族とならぬよう準備万端整えて、後顧の憂いなくこの世とサヨナラしよう。

ワイズで唯一の功績？と自負するブリテン編集を何方かに譲ってからです、...

感謝状 授与！！



詳細は次号にて

「人道規範は揺るがない」 オタワ条約第22回締約国会議

JCBL 代表理事 清水俊弘

12月1日ジュネーブの国連本部で開催された主題会議の内容について清水代表理事よりZoomで報告がありましたので概要記載します。

1997年オタワ条約が締結、1999年3月1日発効してから26年、現在締約国はマーシャル群島、トンガの2か国が加盟し166か国。目的は対人地雷の使用・生産・移転・備蓄の禁止。ロシアのウクライナ侵略が続いており、今回、近隣のフィンランド、エストニア、ラトビア、リトアニア、ポーランドの東欧5か国が締約国から脱退する。また、ウクライナは2025年7月から運用停止。条約の脱退や運用停止は許されないが、今回脱退する5か国を除くと加盟国は161か国に減少する。

今回は日本が議長国での開催で、会議はまずこれまでの犠牲者のために黙祷。開会式のスピーチは中満泉国連事務次長とJCBL代表ののアレックス氏などで一般討論に入り、次の報告がありました。

1. 2024-25年の地雷による犠牲者はミャンマー、ウクライナ、シリア、アフガニスタンが多く、2024年の犠牲者は6,279人。
2. 発言した未加盟国は7か国でミクロネシア、ラオス、モロッコ、アルメニア、韓国、シンガポール。契約国は30か国以上が発言。内容は離脱した5か国、及びウクライナへの批判と復帰を求めること、ロシアへの非難をカナダ、オーストラリア、ドイツ、日本が発言。
3. 未加盟国への働きかけ：アジア地域が多く、ラオス、シンガポール、ベトナムに働きかけている。また、離脱の可能性のあるスウェーデン、デンマークには引き留め工作をしているが、もし離脱するとNATO加盟国であり、合同演習の時に2か国が対人地雷を使うとすれば複雑となる。
4. 地雷の除去—オマンが完了。延長を続けている国は14か国であるが、2014年のマプト条約により2025年までの除去が出来ずにおり、2030年まで再延期する。次回の契約国会議で4年以内に廃棄するよう指示する。
5. 国際的な地雷対策—2024年に10億7900万ドルであるが2025年にはこのうち37%を占めていた米国の協力停止は資金面で厳しい。しかも支援は3割以上がウクライナでありサハラ以南のアフリカへの支援は限られている。しかも除去が中心で犠牲者支援は少ない。
6. 米国のウクライナへの供与

米国のバイデン大統領はウクライナに対人地雷を輸出したが実際に如何に使用されたのか不明。また、カン

ボシア・タイの国境地域紛争で地雷が使われ犠牲が出ている。

7. 危険回避教育

全体の資金の2%であり、ポスター、パンフレットの作成、犠牲者の話を聞き纏める。

8. 結論

①離脱した5か国についてリーフレットに明記

②ウクライナの運用停止を認めない。早期復活を求める。

次回は2026年11月にザンビアが議長となり国連本部で開催する。

最後に清水俊弘代表理事より寄付金については東京八王子ワイズメンズクラブが20年以上にわたり継続してチャリティコンサートでの寄付をしていることに感謝されました。(記録：久保田貞視)

2026 年在京ワイズ新年会

久保田貞視

2026年1月10日(土)13:15より東京YMCA 東陽町コミュニティセンターで開催され、当クラブからは長谷川会長、花輪、小口、並木真、久保田の5人が参加、全体では80余名が集まりました。

今年は東京西クラブ・東京武蔵野多摩クラブ・東京たんぽぽクラブの合同主催でした。

第1部は東京YMCA 高等学院トーンチャイム部によるトーンチャイム。ウィンドウベルとは違い音色が静かで落ち着いた感じの演奏でした。

第2部の開会点鐘は東京たんぽぽクラブの小原史奈子ワイズ、歓迎の言葉は東京武蔵野多摩クラブの渡邊大輔ワイズ。ご挨拶は昨年4月に就任した東京YMCA 総主事の星野太郎氏で、その後一同で記念写真。

第3部は「ユースと話す、ワイズを語る」のタイトルでの



グループディスカッションで6グループに分かれて各自の考えをポストイット3枚に書いて模造紙に添付したが、時間が限られており、また、ユースは昨年熊本のAYCに参加した4人だけで、我がグループにはユースはいなく

時間切れで十分の意見交換は出来なかった。当クラブはいつくもとの関係を強調、他クラブではかつて東京北クラブでは清心女子大学の学生が例会には参加していたが同クラブはすでに解散してしまった。纏めは各グループの代表がグループ内での意見をまとめ報告した。また、ユースファンドの協力依頼について山田公平直前理事と並木真ユース事業主任から、インドスタディツアーについて川越クラブの山本剛史郎ワイズから参加の呼びかけがありました。

第4部の懇親会に入り、食前感謝の後の乾杯は東日本区理事の山下真氏(十勝クラブ)でビュッフェスタイルの懇親会。アピールタイムでは当クラブは3月28日のチャリティコンサートのPR、各クラブそれぞれの行事を発



表した後、6月の石巻での東日本区大会について石巻広域クラブの関川ワイズ(石巻広域クラブ)が区大会参加の呼びかけ。特に今回は東日本大震災から15年に当たり震災の状況と復興をテーマに開催する。その後、8月のドバイでの国際大会への参加依頼が田中博之元国際議員からあり、YMCAの歌があり、渡邊大輔ワイズの感謝の言葉でお開きとなった



在京ワイズ新年会80名集合

今月の聖句に寄せて(2026年1月)

イエスの示された祈りの言葉に、『私たちの負い目をお許しください。私達も自分に負い目のある人を赦しましたように。』とし、人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。』とあります。聖書に示されるもつとも大切であり、また、行うのにもつとも難しい教えが、「愛すること」と「赦すこと」であるように思います。

戦前、戦後に同志社大学の総長、また、国際基督教大学の初代総長を務められた湯浅八郎先生は、京大Y、京都Yの理事長を務め、東京では、武蔵野ブランチの初代委員長の役を担われ、大学YMCAを含め、全国のYMCAの指導的な役割を果たされました。

この湯浅先生が生活信条とされた、とされる言葉があります。

” 生きることは愛すること
愛することは理解すること
理解することは赦すこと
赦すことは赦されること
赦されることは救われること“

「赦す」とは、認めることだ、という人がいます。相手の非を咎め、批判することで自己の正当性を主張するのではなく、赦すことによって相手を認め、共に生きることにより喜びを見出そうとすること。私もあなたも、共に不完全な人間、寄り添って生きることが大切。良寛の歌に次の歌があります。

”人の善悪 聞けば我が身を 咎めばや 人は我が身

の 鏡也けり”

他の人のよくない行いを聞いたならば、自身を振り返り、自分が悪かったのではないかと、自らを省みよう、そして、人を赦し、自分をも赦そう。と良寛さんのやさしさ。

新しい年、湯浅先生の生活信条を、座右の銘にできるだろうか。

(並木

信一)



湯浅八郎先生

わくわくビレッジ便り

館長 西嶋健太

新しい年を迎え、寒さの中にも凜とした空気が感じられる季節となりました。皆さまには、日頃より高尾の森わくわくビレッジの活動にご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、昨年末から年始にかけての当館の様子をご報告いたします。現在、体育室・研修室・教室の工事を行っている影響もあり、大人数での宿泊団体のご利用は一時的に減少しております。一方で、ご家族でのご利用が大幅に増え、親子や三世代で自然を楽しむ姿が多く見られました。全体の来館者数につきましては、例



年と同様の水準で推移しており、今年度も安定した利用状況となっております。

また、年末年始の期間中も多くのお客様にお越しいただきました。新年を自然の中で迎えたいと願う方々が集い、森の静けさと澄んだ空気の中で、それぞれの時間を過ごされていました。寒さ厳しい時期ではありますが、野外炊さんに挑戦したり、テント泊を体験されたりする利用者の姿もあり、自然と向き合う力強さにスタッフも心を打たれました。

さらに今月は、少し珍しい交流の場も生まれました。SNSを通じて親交を深めてきた着ぐるみのキャラクターたちが、わくわくビレッジでグリーティングを実施してくれました。延べ10体の着ぐるみが来館し、訪れたファンの方々と写真撮影や交流を楽しみ、和やかな時間となりました。当館のキャラクター「たぬきち」も、着ぐるみはございませんが仲間に加えていただき、心温まるひとときを共有することができました。

寒さの中にも人のつながりの温もりを感じる年明けとなりました。本年も、高尾の森わくわくビレッジは、自然と人とが出会い、心を育む場として歩み続けてまいります。皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

東京YMCA 近況報告

担当主事 西嶋健太

1. 12月16日「職員クリスマス礼拝」を日本基督教団霊南坂教会で開催し、東京YMCA職員約100名が出席した。上林順一郎牧師(東京YMCA元常議員)に「世の光となみなさい」と題して説教をいただき、礼拝の中で職員有志による聖歌隊が讃美歌「あら野のほてに」を讃美した。また礼拝後には飯靖子氏(東京YMCA理事・日本基督教団霊南坂教会オルガニスト)によるオルガン演奏が披露された。
2. 「クリスマス募金」の受付を開始した。寄せられた募金は、ウクライナ支援、国際協力募金、フレンドシップファンド、ユースボランティアリーダー養成募金として用いる。またAmazonの協力により全国のYMCAで実施しているチャリティーキャンペーン「Amazon みんなでサンタクロースプログラム」では、Amazonの「ほしいものリスト」により、「下町こどもダイニング」(子ども食堂)、外国にルーツを持つ子どもたちのプログラム等で使用する物品支援を呼び出している。
3. ミャンマー地震緊急支援募金は、多くの個人、団体、企業等からご支援をいただき、10月末までに1,155,366円が寄せられた。6月末にネパドーYMCAに送金した。4,000ドル(583,200円)は、米・食用油・石鹸などの生活必需品として支援を必要とする方々に届けられていた。今後もネパドーYMCAと連携しながら送金準備を進めていく予定。
4. 12月末から2月にかけて7つのスキーキャンプが予定されている他、水泳クラスや英語特別プログラムなど、後期プログラムが多数実施される。
5. 今後の主な行事予定
 - ・「早天祈祷会」1月5日(山手センター/オンライン)
奨励:田口努(日本YMCA同盟総主事)
 - ・「ソシアスフォーラム2025」1月31日 会場:山手センター(オンライン配信あり)
テーマ:『「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」が問うこと』
基調講演:大江浩氏(社会福祉法人賛育会法人事務局ミッションサポート部部長・
赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト事務局長)
 - ・「全体職員研修会」2月11日 会場:青山学院初等部
講師:片柳弘史神父(カトリック宇部教会主任司祭)
 - ・「YMCAピンクシャツデー2026」(いじめ反対運動)2月25日
6. 海外来訪者
 - ・サンパウロYMCA(ブラジル)理事長 Alexandre Uehara氏 12月15日

ひつじぐも便り

ひつじぐも委員長兼ワイズ係代表
中央大学総合政策学部国際政策文化学科2年
霞ひかる

新しい年を迎え、改めてご挨拶申し上げます。昨年はさまざまな場面でお世話になり、ありがとうございました。

私事ではありますが、私がひつじぐもの委員長を務めることになったのは、昨年の10月から11月にかけてのことでした。就任当初は、どのようなサークルを目指していくのか、また自分がどのような委員長であるべきなのか分からないこと



ばかりで、年末までさまざまなイベントに参加し、多くの方々にご挨拶をしながら模索する日々を過ごしました。その中で、本当に多くの方と出会い、さまざまな活動や考え方に触れる機会をいただきました。いろいろな場所で、ボランティアや社会活動に取り組む団体があり、それぞれが課題を抱えながらも、自分たちにできる形で活動が続いていることを知りました。そうした出会いを通して、自分の中の世界が少しずつ広がっていくような感覚を覚えました。

また、多くの団体に共通して感じたのは、「若者の力」を必要としているということでした。学生が参加すると喜んで迎えてくださる場面も多く、八王子ワイズメンズクラブ様とも11月にご挨拶させていただいた際、そのあたにかさを感じたことをよく覚えています。学生サークルの委員長として、学生一人ひとりの力や可能性を、こうした場につないでいくことが、自分の役割なのではないかと感じています。

年を越し、ようやく落ち着いて、これからのサークルの在り方を考えられるようになってきたところです。まだまだ駆け出しではありますが、人との出会いを大切にしながら、学生の力を広げていく活動を、丁寧に続けていきたいと考えています。

本年もお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

東京 YMCA ソシアスフォーラム 2025 のこと

小口多津子（東京 YMCA 会員部所属）

こういう記事が、ある SNS に掲載されました、「・・・熊本の慈恵病院の「このとりのゆりかご」に我が子を預け入れた沙也さん。匿名の先に、寄り添い向き合う相談員に助けられました。

主題「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」が問うこと。2026 年 1 月 31 日（土）14:00～東京山手コミュニティセンターを会場に、リアルとオンラインで開催されます。（参加無料）是非、お話をお聞かせください

（チラシの中の QR コードで申し込み出来ます）

沙也さん『なんで妊娠したの』って責められるんじゃないかって・・・ゆりかごに預けることで怒られるんじゃないか、身元を聞かれるのではないか、」そんな恐れも持ちました。沙也さんは自分で育てたい気持ちと、誰にも知られたくない気持ちとで揺れてその場を立ち去ろうとした時、その時、偶然に居合わせた病院職員と出会い、自分を責めずに寄り添ってくれたことが、今でも忘れられないと話します。

行政が赤ちゃんポストを設置することになっても、最後の砦として問われるのは、育てられないと悩む女性とどのような態度で向き合えるのかです。対応する人の立場や姿、声掛け一つで、受け止め方は大きく変わります。その後の沙也さんの生き方にも・・・」

この度、はじめて関東圏にも作られることで、社会福祉法人賛育会がプロジェクトを立ち上げています。その代表の大江浩氏のお話です。

飯島隆輔牧師による、聖書（マタイによる福音書・ルカによる福音書）を題材としたクリスマス・メッセージの要約です。



1. 東方の学者と羊飼い：対照的な二組の訪問者

イエスの誕生を祝ったのは、対照的な二つのグループでした。

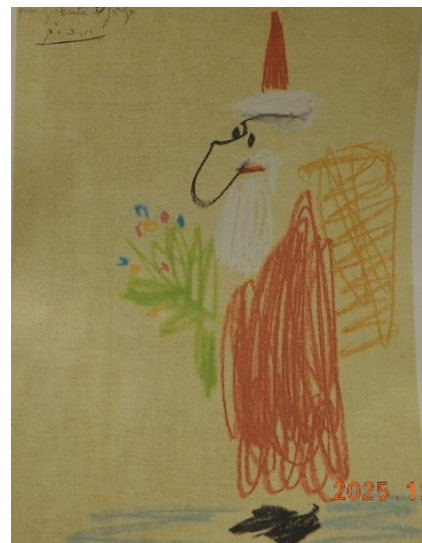
●東方の学者（マタイ

による福音書）：当時の先進国（現在のイラン付近）から来た、世界最高峰の知識人。数学や占星術を極めて「生きる意味」を見いだせず、星に導かれて困難な旅をし、黄金・乳香・没薬という高価な贈り物を捧げました。

- 羊飼いたち（ルカによる福音書）：当時「3K（汚い・きつい・危険）」と言われ、社会の底辺で軽蔑されていた人々。彼らには捧げる贈り物は何もありませんでしたが、天使の告げを聞いて真っ先に駆けつけ、飼い葉桶に寝る幼子を拝みました。

2. 福音書が伝える「価値観の転換」

福音書（マタイ・ルカ）は、イエスの死後数十年を経て、イエスに出会い人生が 180 度変わった人々によって書かれました。



ピカソの描いたサンタクロース

▼東京YMCA ソシアスフォーラム2025▼

【基調講演】
「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」
～TOKYO YMCA VISION150と未来への責任～ が問うこと
1/31（土） 14:00～15:05
会場：東京YMCA山手コミュニティセンター
＊オンラインでご視聴いただけます。 ＊参加費無料

第1部：開会 『TOKYO YMCA VISION 150』の今 14:00～14:20
東京YMCAは、2030年に創立150年を迎えるにあたり、「TOKYO YMCA VISION150」をスタートしました。中核となる行動指針では、ユースの確立をつくること、地域とともに歩むこと、多様性のある場を大切にすること、そして子どもたちの未来のために環境を守ることを掲げています。その進捗を共有します。

第2部：基調講演 14:20～15:05
【講演者紹介】大江 浩氏
社会福祉法人賛育会 代表理事
赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト 専任職員
社会福祉法人賛育会は、東京大学YMCAが始めた妊婦乳児相談所を原点として、107年間、福祉と医療を行ってきました。今新たな使命として「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」（困難する母子の保護や経済事業や妊婦SOS相談事業）を開始しています。その活動から私たちが関わっている、いのちと共生という社会的課題について、皆さんとともに考えたいと思います。

お申込み 1月23日（金）まで ※オンライン（ZOOM）の詳細は、お申込み後、お知らせします。
※左記のQRコードを読み取りフォームからお申込みください。
※メール・電話でもお申込みいただけます。（下記会員部まで）
※どこでもご参加できます。お仲間、ご家族もお誘いください。
※多くの皆様のご参加をお待ちしています。

会場参加の方へ
基調講演後会場では、講演会を受けて、参加者同士で感想を分かち合う時間と、交流の時間も設けています。（16:30終了予定）

●能登半島災害支援●
会場では、YMCAが行う災害地復興支援の一環で、能登半島の物産品販売を行います。
「買って応援」、商品選びも楽しみながら、能登への支援に心を寄せましょう。

公益財団法人 東京YMCA 会員部
〒169-0015
新宿区西新宿2-3-18 日本キリスト教会館6階
TEL 03-6278-9071 e-mail: kalin@tokyoymca.org

- **愛の生き方:** イエスは病者、障害者、孤独な人々など、社会から疎外された人々に寄り添いました。
- **平和の追求:** 「剣を取る者は皆、剣で滅びる」と教え、武力による支配ではなく、愛と平和の重要性を説きました。

3. 現代へのメッセージ: 本当のプレゼントとは

- **歴史の教訓:** 武器で支配した強大な国々は、歴史の中で例外なく滅びてきました。現代の紛争(ウクライナやガザ)の終結を願い、平和への歩みが求められています。
- **私たちの捧げもの:** 私たちは学者のような高価な贈り物は用意できませんが、羊飼いのように謙虚な心で、平和を願い、隣人を愛する「心」を捧げることが、本当のクリスマスの祝いです。
- **人類への希望:** 最後に、科学の進歩(ノーベル賞級の発見など)が人類の課題を解決する助けとなることに触れ、それらもまた現代における大きな「恵み」とであると結びました。



牧師さんもジレンマを踊る！ お相手は福田勝江さん



12月第一例会(クリスマス会)報告

(敬称略) 報告書記・小口

日時: 12月14日(日) pm3:00~6:00



会場: 高尾のわくわく
ビレッジ・音楽室、カフ
エテリア

出席者: ゲスト(飯島
隆輔牧師、愛子夫人、
永町匡世(ピアノ)、阿

部智世(バイオリン)、酢
屋善元、福田勝江、渡邊
敦(ひつじくもOB)、中里
敦(東京YMCA)

ビジター(藤田 智、恵美メ
ネット、綿引康司、為
我井輝

忠(東京多摩スマイル)、本川悦子(東京西)。ひつじ



くも(霞ひかる、櫻井
美佳子、程大龍)

八王子クラブ(長谷
川、稲葉、小口、花
輪、望月、久保

田、久保田佐和

子、大久保、西
嶋、山本)26名。

1部: 長谷川
会長の開会
点鐘、讃美
歌103番「ま
きびとひつじ



を」に続いて、飯島隆輔牧師のメッセージ「主イエスの誕生と学者、羊飼いの」。お祈り、讃美歌109「きよしの夜」黙祷。



連絡事項は会長から、「次年度次期会長に久保田貞視さんが承認されたこと」、11月例会の報告。

在京新年会が1月10日(土)東京YMCA東陽町センター、ホスト



武蔵野多摩クラブ。

YMCA報告を西嶋担当主事「11月北米フロストバレエYMCAのCEOが東京YMCA訪問で来日され、フロストバレエ

YMCAの取り組みの講演。11月15日に国際協力一斉街頭募金が新宿で。」

配布チラシ3件の説明

＊3月チャリティコンサート

＊1月31日(土)東京YMCAソシアスフォーラム
(講演、大江浩氏)

＊3月19日(土)東京YMCA認知症サポーター養成講座。

2部:懇親の夕べ、会長からゲスト、ビジター、ひつ



じくもご紹介。
永町匡世さん(ピアノ)、阿部智世さん(バイオリン)のご姉妹の楽しいコンサート。ジ

ヤズ、マンボ、歌謡曲、ピアノとバイオリンでふんだんに演奏下さった。曲イントロクイズあり、輪になってのダンス、本当に楽しい、アットホームな時間でした。

スマイル(多摩いのちの電話のために)

金額は23,300円。

3部:会食のゆうべ。1階 カフェテリアろんたん乾杯を中里敦さんでスタート。特製わくわく御膳、飲み物、自由歓談で。6時10分に解散。(以上)



2025年12月第二例会・報告

日時:2025年12月27日(土)6:00～

北野事務所小会議室

出席者:(A)長谷川、並木(真)、稲葉、小口、(B)久保田、花輪 (6名)

<報告と話し合い>

☆12月14日(日)クリスマス例会

出席者はクラブから10名、ゲストは8名、ビジター5名(東京多摩スマイル、東京西)、ひつじくも3名、総数26名でした。

・食事とコンサートが別の部屋だったことが良かった。場所が広く使えたことで、ダンスも出来た

・食事のご膳は美味しかった。スマイル 23,300円(12/15に東京多摩いのちの電話へ振り込み済み)

☆これからの予定

・在京ワイズ合同新年会・2026年1月10日(土)13:15～東陽町センター、ホスト武蔵野多摩。

出席(久保田、長谷川、花輪、並木真、西嶋、小口)

・1月第一例会 1月24日(土)18:00～B班、卓話者は、田口秀夫氏「八王子の偉人 肥沼博士」。

・東京YMCAソシアスフォーラム

1月31日(土)14:00～16:30山手センター 参加費無料
基調講演のみオンライン有。

基調講演「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクトが問うこと」 講演者 大江浩氏(社会福祉法人賛育会)

・次期会長・部役員研修会

3月14日(土)～15日、御殿場、東山荘。

出席は久保田次期会長。

☆協議事項

①2025～2026年度前期会計報告(会計、稲葉さん)・・・別紙会計報告の説明。了承。

②3月7日街頭募金の目的は?・原点の「対人地雷・クラスター爆弾廃絶のために」を検討。

③第24回 チャリティーコンサート 2026年3月28日(土)ちらし、ポスター配布済み。

④あずさ部第2回評議会(ホスト、八王子クラブ)
2026年4月18日(土)13:00～
高尾の森わくわくビレッジ研修室I、

⑤4月25日(土)第一例会(B班)例会前に、
W4Wのゴミ拾いを実施。

☆その他の協議事項

＊東日本区「ユースサポートファンド」について、1口5000円、目標200万、締め切り4/30。

クラブとして、6口、30000円を寄付。

1月ご誕生されたメンバー

並木 信一 さん 1月20日



東京八王子ウィズメンズクラブ

対人地雷・クラスター爆弾廃絶のために

第24回

チャリティー コンサート

主な曲目

- ・山田耕筰：あわて床屋
- ・黎錦光：夜来香（イエライシャン）
- ・ヘンデル：オペラ「リナルド」より
“私を泣かせてください”
- ・グノー：オペラ「ファウスト」より“宝石の歌”
- ♪皆で歌いましょうコーナー♪
- その他、カンツォーネ、懐かしい日本の歌など

※なお、曲目は変更する場合がございます

出演者

山口佳子 ソプラノ（やまぐち よしこ）
矢崎貴子 ピアノ（やざき たかこ）



ソプラノ 山口佳子
やまぐちよしこ

八王子市出身、在住。都立八王子東高等学校卒業、東京藝術大学声楽科卒業、同大学院修士課程修了。2005年藤原歌劇団「ラ・チェネレントラ」クロリンド役でデビュー後、4年間イタリアへ留学。第11回オルヴィエート国際コンクール第一位（オペラ部門）。ベネザロ・ロッシーニ音楽祭「ランスへの旅」コルテーゼ夫人役、トリエステ歌劇場「カルメン」、ミカエラ役他、欧州各地の公演に出演。帰国後も様々なオペラ公演で主要な役を務め、近年は日生劇場主催「セビリアの理髪師」、藤原歌劇団公演「ランスへの旅」、「カルメン」、「ジャンニ・スキッキ」、「コジ・ファン・トゥッテ」、「ファルスタッフ」等に出演。地元八王子でも、西本智実指揮「第九」のソプラノソロ、市制100周年記念オペラ「アイーダ」に巫女長役で出演、その他「アイバンク・チャリティコンサート」、「八王子deオペラ」シリーズ等、様々なコンサートに出演している。CDに日本歌曲集「樋口一葉～恋の和歌～」、ソノアルバム「ミロワール」がある。藤原歌劇団団員。



ピアノ 矢崎貴子
やざきたかこ

山梨県出身。八王子市在住。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学を卒業。同研究科修了。ピアノを岡村玲子、北村陽子、野島稔の各氏に師事。研究科修了時、安川記念ジョイントリサイタルに出演。これまでに、新国立劇場、日生劇場、セイジオザワ松本フェスティバル、二期会など、様々なオペラ公演に稽古ピアニストとして携わる。また、東京混声合唱団とも共演を重ねている。学習院OBブラームス合唱団伴奏者。
現在、二期会研修所、国立音楽大学大学院オペラ科ピアニスト。

入場整理券

1,000円

お問い合わせ先：
花輪宗命
(090-2213-0257)

主催：東京八王子ウィズメンズクラブ
後援：八王子市
地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)